

置せらるゝを歓迎し、用地の如き若松築港會社所有の埋築地は別とし、其他は坪一圓七十五錢當りを以て、極めて迅速に殆んど畫一的に交渉の纏まりたる如きは異數なりと云ふ。

藤田組の滿俺鐵製造計畫 藤田組にては鑛物其他一般の精煉方に付き研究部を設けて研究中なるか、從來は輸入品なりし滿俺鐵を經濟的に製造する方法を按出し、之を製造することに内定し、工場を名古屋市の熱田に移すべく、既に敷地の買入れ契約及名古屋電燈會社よりの電力供給契約も略成立したるより、近き内に工事に著手すべく目下準備中なりと。

大倉組の木炭鐵製造計畫 本溪湖煤鐵公司にては、從來一ヶ年銑鐵三萬六千五百噸の銑鐵生産力を、當年中に倍加して七萬六千噸に増加せしむる計畫を立てしと同時に、木炭銑鐵てふ本邦未曾有の製鐵事業を計畫するに至れり、同製鐵事業は大食男一個の事業として、硫黄分等を全く除去して強度の鋼を製造する事業にして石炭に頼らず木炭のみに頼る製鋼方法なるか、同製法の企業には資本金約三百萬圓を要する見込にて、其製鋼所の位置は未定なれとも、木炭供給の關係上北海道方面に於て選定せらるへしといふ。

(二月五日中外商業)

●鐵鋼供給問題の講演討論會 現今鐵鋼材輸入の途殆と杜絶し造船業其他鐵鋼材使用者の困難一方ならず、

由て多數の斯業従事者を一堂に集め鐵鋼の供給に付き目下應急救治策を立て、進て永久に鐵鋼の自給策を講せんとの趣意を以て、本會か造船協會、機械學會、火兵學會、電氣學會等と聯合して開催せる講演討論會は、豫定の如く一月十五日午後一時半麴町區永樂町東京驛内ステーションホテルに於て開會せり、來會者無慮六百、流石の大廣間も實に立錐の餘地なき盛況なりき、定刻に至り寺野精一氏を座長に推し、同氏の開催の辭に次ぎ、今岡純一郎氏演壇に上り鐵鋼の獨立自給策を大別して二となし、永久的方法としては(一)官營製鐵所の擴張(二)民營製鐵所の獎勵これは現に續々興起しつゝありとて其名稱を擧げ(三)官營製鐵所を拂下けて官民合同會社となし大に擴張する事とし、救急的方法としては(一)外國鋼材を出來得る限り多量に輸入する事(二)内地製鐵所の生産方針を最も有效なる方面に向くるととし、若し何等かの方法を講せされは至る所骨無き船の横たはるを見んと結論し、次に野呂景義氏は通知狀には日本鐵鋼協會理事長とあれとも述ふる所は野呂個人の意見なりと前置して、先づ製鐵の第一義は鐵鑛の供給にあり、鐵鑛の供給を豊かにするには(一)探鑛の獎勵(二)日本産鐵鑛使用の獎勵(三)鐵鋼の運賃引下げ等の諸要件あり、又た現今盛に興起する製鋼所は何れも原料を無視せるか如し、製鋼は製銑と相伴ひ連續作業するに非されは不利益なり、且つ製鋼事業は現今は極めて有利なれとも戰亂終熄して外品再び輸

入するに至らは忽ち壓倒せらるゝ虞あり、世界何れの國か獎勵法を講せずして製鐵事業の興隆せしものあらん、其節の保障として外品に輸入税を増課する必要ありと説きたり。

右了て討論に入り吉川雄甫、大河内正敏氏以下續々登壇して意見を述べ、中にも各學會より座長の指名選出せし本會の瀧澤七郎氏か、自己可鍛鐵工場を經營せる爲め廣告の意味もあるかと前置して、可鍛鐵を使用して、鐵材使用を節約すること、竝に古鐵を利用して各種の製作をなせる實地經驗談をなせしは、消極的にもあれ規模の小なるにもせよ應急策として適切のものなりしを疑はず、此間に長崎三菱造船所長鹽田泰介氏より電報を以て、本會議は結局製鐵所の擴張を意味す事情に拘泥せず宜しく決行すへしとの意見を陳へ來り、日本製鋼所長高崎親章氏は兵器製作事業は困難薄利なれとも獨逸クルップの例を擧げて兵器民營の利を説き、結局各製鐵所大合同の意見を述べたり。

最後に本會の今泉嘉一郎氏は、本會議は今より十年前或は二十年前に開くならば最も有效なりしならんか、今日の急場に臨み開會するは無意味に非ざるか、併し既往は各むるも詮なしとして、官營製鐵所の擴張に對し情實に拘はらず註文を爲すことを許さるれば、同所にては鋼塊鋼片等の製作に止め、それ以上は民間工場の加工に委ねられたしと説きたり。

これにて討論の終結を告げんとし、會の中途より代りて座長席に就きたる阪田貞一氏此旨を宜せんとする刹那、五代龍作氏は折角これだけ多數の會同ありし事ゆへ、座長に於て各學會より適當の委員を指名選出し、引續き本問題を攻究せしむへしとの動議を提出し、多數の賛成あり、斯波忠三郎氏はなほ其れに加へて、製鐵所長官には其多數の意見を参考に供して擴張計畫を立てられたしとの希望を述べたるに、押川長官演壇に登り、製鐵所は研究に研究を重ねて成案を具し政府に提出したることゆへ、今更新に意見を容るゝ必要なし、且又現在提出しある案は今泉氏の案とも異なりと言ひ放ちたり。

斯くて委員選出の事は各學會代表といふわけには行かざれとも、兎に角後刻協議の上適當の人を選ぶこととし、討論會を閉止せり、時に午後七時なり、斯く長時間に亘り會衆毫も喧噪倦怠の狀なく、熱心討議に聽入りしは。深く此問題に利害を感じ、眞摯に研究して解決を求めんとするの念切なりしを窺ふに足る、されと永久救治策としては兎に角、應急救治策としては何人も適切なる方法を見出たすに苦みしか如し。

それより別室に移り聯合新年宴會を開きたり、出席者總員二百五十名其席にても又復た意見を闘はせ、全く散會せしは午後十一時なりき、尙ほ講演の詳細は本會々誌に掲載するか、或は他の適當なる方法を以て會員に周知せしむる

### ●新著紹介

向井哲吉著 最新簡易製鐵術 九善 正價二圓三十錢  
 本書は第一版を出せしより既に二十餘年、今茲に其稿を新にし其間に遂げたる著大なる進歩を記述して改版せしものとす、著者は目下八幡製鐵所に在りて製鋼工場を全般に亘りて主宰し、又嘗て東京高等工業學校に於て教鞭を執り、今現に入幡製鐵所にて職工養成所の職務を擔任せらる、本書の如き目的を有すへき著を爲すに最適任者と稱すへし。

全部二百二十二頁を分ちて四編となし、第一編六十七頁に亘る總論に於て、鐵の分類・鐵化學・鐵の理學的性質・製鐵原料・製鐵爐及爐材につき論し、第二編は四十一頁を費して銑鐵製造を述へ、熔鑛爐の構造の大要を述へて其操業法を説き、其生産物なる銑鐵の種類を述へ、終りに電氣熔鑛爐につき一頁を費せり。

第三編には四十三頁に亘りて鍊鐵及鋼製造を叙し、和鐵製鐵法及其製品につき可なり詳述し、次に坩堝鋼・ベッセマー鋼・平爐鋼及電氣鋼の製鋼法を説き、滲炭鋼及脫炭鐵を叙せり。

第四編造形加工は三十九頁を費し、鍛鍊加工に於て銚・推壓機及壓延加工を説きたり、壓延法にては(一)粗壓延

(二)條鋼壓延(三)鈹鋼壓延(四)線材壓延(五)特種製品に別ち其概要を記述せり。

本書には一頁大の寫真版七葉と色刷版二葉とを附して説明に便せり。

之を要するに、本書は簡易に製鐵法を記述せるものにして、近來製鐵事業振興の機運に際し、斯業に携らんとする人をして、一般的の智識を得せしむるに便利なる書と謂ふへし。

### ●鐵及鋼に關する特許

特許局發行の特許公報本年十二月十日以降の分より鐵及鋼に關係あるものを摘記すれば左の如し。

第二八六一六號(明治四十五年五月十五日出願  
 大正四年十一月十八日特許)

特許權者 米國パテンツパーチエー

ジング、コンパニー

#### 電氣弧光爐

發明の性質及びひ目的の要領 本發明は熔解器の一部を非金屬性電極となし、之に對して其間に電弧を生すへき電極は金屬製とし、且可調整に作り鑛石中に含有せられたる金屬と共に熔解して滴下する様にせる電氣爐に關し、其目的とする處は電極の一部を熔劑として働かしめ、隨て數種の含有金屬を抽出する場合と雖、能く其作用を迅速簡單に行はしめんとするにあり。